

4 各部門の活動内容

■呼吸器科

○呼吸器科の現状

当院は2004年4月から主として肺癌以外の呼吸器疾患全般を担う事となりました。2004年度の入院患者内訳は、肺炎117名（20%）、睡眠時無呼吸症候群96名（16%）、肺癌59名（10%）（2004年3月以前から肺癌治療施行していた患者が主）、気管支喘息75名（13%）、COPD39名（7%）、間質性肺炎22名（4%）、肺結核後遺症21名（4%）。器質化肺炎11名（2%）、膿胸11名（2%）、非結核性抗酸菌症11名（2%）、その他136名（20%）です。

近年、呼吸器疾患、ことにCOPDに伴う呼吸不全が増加傾向にあり、在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸療法（NPPV）の適応患者が増加しつつあります。現在、外来におけるHOT導入患者は21名、在宅人工呼吸療法導入患者は7名です。携帯型の経皮酸素モニターによる24時間解析も可能となったため、夜間の低酸素、呼吸状態のスクリーニングが容易となり、きめ細かな治療が可能となりました。また、呼吸不全患者には低栄養が多く認められ、呼吸リハビリテーション（理学療法士）、薬物療法（医師、看護師、薬剤師）とともに栄養アセスメントに基づく栄養指導（管理栄養士）も導入しており、包括的呼吸リハビリテーションの体制が整いつつあります。

また、睡眠時無呼吸症候群（SAS）は睡眠のみにとどまらず、高血圧、耐糖能低下、脳梗塞、心疾患など、全身疾患との関連も示唆されており、それらとの関連を含め、積極的に取り組まれています。現在、経鼻の持続用圧人工呼吸療法（CPAP）導入患者は70名ですが、増加の一途を辿っています。

○今後の展望

1. 慢性呼吸器疾患診療の充実
栄養サポートチーム（NST）の介入
2. 喘息・慢性閉塞性肺疾患の患者教室の開催

○呼吸器科週間スケジュール

火 17:30～ 新患カンファレンス（医師、看護師、理学療法士）
水 13:15～ リハビリカンファレンス（医師、看護師、理学療法士）
木 17:30～ 呼吸器画像カンファレンス（放射線部と合同）

文責 原田 尚雄

年 報

呼吸器科 睡眠時無呼吸症候群（睡眠呼吸障害）担当

平成16年下半期は徐々に患者紹介件数が増加しており、他院での認知度が上がっているものと思います。この半期に施行した睡眠ポリソムノグラフィー検査は46件でその内で睡眠時無呼吸症候群の診断確定したものが28件です。CPAP治療導入件数は24件増加しています。今後も睡眠障害（睡眠時無呼吸症候群）診療の更なる普及に向けて取り組む予定です。